

岩屋緑地のきのこ図鑑



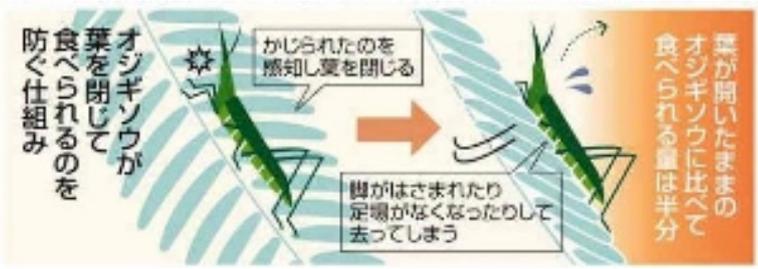
NO. 23 コフキサルノコシカケ

マンネンタケ科マンネンタケ属、和名：粉吹猿腰掛、別名：コフキタケ。世界に広く分布する。広葉樹の生木、切株、枯木に発生する。子実体は多年性で、数十年も生育して大きくなる。側着生、無柄。傘は半円形～扇形、幅5～75cm、普通、平ら、中間で厚さ2～3cm、基部で厚くなる。名前のお通り、座ってもくずれない程の耐久性があり、とても頑丈で壊れにくいキノコ。一般的には食べない、食用には不向きなキノコだといわれている。岩屋緑地ではナメコ栽培地そばの大きな枯木の根元や北駐車場からの道がランニング道路に合流する所の切り株に生えている。キノコ発生が少ない冬場にコフキサルノコシカケのように年中見られるきのこを探して歩くのも面白い。【写真：コフキサルノコシカケ】

あんな話 こんな話

オジギソウ「ペコリ」のワケ

オジギソウに手を触れると「おじぎ」をするように葉を閉じるのは、昆虫に葉を食べられるのを防ぐためだとの研究成果を、埼玉大と基礎生物学研究所（愛知県岡崎市）のグループが発表した。葉を閉じる理由は長年の謎で諸説があったが、実験により初めて科学的に解明したという。オジギソウは南米原産、葉を閉じるのが珍しいので古くから研究されてきたが「オジギをしないオジギソウ」が自然界に存在しないため葉を閉じる効果を比較研究することができなかった。研究グループはゲノム編集技術で「オジギをしないオジギソウ」を作成。それぞれ同じ条件でバッタを放ったところ、おじぎをする方は食べられる葉の量がおよそ半分になることが分かった。バッタが葉を食べ始めるとオジギソウが一斉に葉を閉じ始めるためバッタは閉じた葉に脚を挟まれたり足場が無くなったりして、食べるのを止めて去る様子が観察された。葉を閉じるメカニズムも分かったという。この成果は14日付けの英国科学雑誌に掲載された。【写真、記事：中日新聞より】



日本一高い木は姫路城よりも高い！

あんな話 こんな話



2017年（平成29年、古い話だが）に林野庁が新たに高さ日本一と認めた木の高さは62.3m。世界遺産でもある姫路城の天守閣（石垣と建物）の高さ46.35mを楽々と超える。この日本一の木は「花背（はなせ）の三本杉」と呼ばれ、3本の杉が根元でつながるような形で生えている。推定樹齢は1200年にも達する。三本杉は京都市の中心部から北へ約25kmの大悲山国有林にある大悲山峰定寺（ぶじょうじ）のご神木とされている。林野庁の京都大阪森林管理事務所がドローンで調べたところ、想像以上に高いとわかり2017年（平成29年）11月13日にパーテックスレーザという測定機器で樹高を3点計測したところ、3本のうち「東幹」が日本一の62.3m、「北西幹」が2位の60.7mだったことが分かった。もう一つの「西幹」は57.2mで、これでも日本5位となった。それまでは、愛知県鳳来寺山にある「傘杉」が59.6mで日本一を誇っていた。地元としては残念な話。（TABIZINEより）【写真：花背の三本杉（毎日新聞より）】

訃報
去る令和四年十月十三日、会員の中島振策さんが逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記
明けましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。この88号は先号とは真逆で載せた記事がいっぱいで嬉しい悲鳴でした。▼1面の講座の記事作成に当たっては公園緑地課の協力を頂きました。感謝です。3面のニュース記事は学校行事がいっぱいでいつもの容量では収まりきらず、8コマを12コマに増やしました。その分中身が薄くなったことは否めません。申し訳ありません。▼16年前に皆で植樹したコナラが大きく育って原木を取るために初めて伐採された。感慨無量。森の景色が変わって行く。（Y・M）

